

学食へ行こう！

作 向陽高等学校演劇部

登場人物

杉原幸子(18歳 国語教師)
真中誠(33歳 数学教師)
安田祐太(26歳 英語教師)
楠見翔子(24歳 調理科教師)
山本波子(2年 新聞部部长)
金田亜子(2年)
安西莉奈(2年)
鈴木美沙(2年)

1

学食のカフェテラス。女子高生3人が話している。
後ろのほうで楠見が働いている。

亜子 なんかいいいこと無いかなあ！
莉奈 せっかくの春休みなのにね。
亜子 かつこいい彼氏とデートしたり、みんなでUSJ行ったりしたいな。
美沙 彼氏欲しいー。
亜子 この前の彼はどうなったの？
美沙 価値観の違いで別れました。
亜子 価値観？付き合いはじめたばかりじゃん。
美沙 だってメール毎日100通も送りつけてくるのよ。
莉奈 100通もー？ちやうと頭おかしいんじゃない！
美沙 返信しなかったら怒るし、つまらないことばかり書いてくるのよ。あたしの名前であいうえお作文とか。
莉奈 は？
亜子 「鈴木美沙」で？
美沙 そう。
莉奈 え、「す」は？
美沙 透き通る空を、
亜子・莉奈 ……「ず」。
美沙 ずっと一緒に、
亜子・莉奈 「き」。
美沙 君と見上げて、
亜子・莉奈 「み」。
美沙 未来はきつと、
亜子・莉奈 「と」。
美沙 さくらんぼ色。

莉奈 きつじよ。
亜子 バツカじゃないのー！
美沙 付き合いきれないわよ。
莉奈 いい男はどこにいるのかね。

3人ため息

亜子 なんてあたしたちこんなところにいるんだらう。
美沙 もうフランス料理もないのね。パッションフルーツのムースもう一回でいいから食べた
いなあ。
莉奈 イチゴとワインのマリアージュ。もつと食べておけばよかったなあ。
美沙 フランス料理なくすならさっさときれいにメニュー消しちゃえばいいのに。

美沙、フランス料理のメニューに頼ずりする。

亜子 ついついもの癖でここにきちゃっつんだよね。
美沙 日本一の学食だったよね。
莉奈 あーあ、普通の学食に戻っちゃったのになんてここに来てるんだろ。
亜子 春休みの補習ってうちだけなんじゃない？
莉奈 しかも9分ってなに？
美沙 補習まで9分にしないでいいのね。
莉奈 2年たつても全然慣れないよ。
亜子 補習なんかしてもしなくても一緒なのね。
莉奈 まあ亜子にはなから聞く気ないからそうよね。
亜子 失礼な！ってきょうも寝ちやっしたしその通りなんだけどね。
美沙 まあ今日は数学真中だったしね。
亜子 そうそう。あいつの授業真面目に聞いても全然わかんないじゃん。
美沙 わかりませんでした言ったら、「こんなこともわからないのか！」って怒り出す。わけわ
かんない。
莉奈 自分の説明が下手なのを棚に上げてさ。質問に「なられたら、これから会議があるって、

いつもはぐらかすらしいよ。

亜子 らしいね。

美沙 できる子の間では有名なんだって。

莉奈 あたしらには関係ない話だけどね。

亜子 やっぱり佑くんが一番だよ。

美沙 質問はしないけどね。

亜子 するよ！

莉奈 わかってなくせにうんうん頷いてるんだよね。

亜子 そんなことないよ。

美沙 じゃなんでいつも赤点すれすれなの？

亜子 あんたも同じようなもんじゃないー！

莉奈 まあまあ、言い合えるようなことでもないでしょ。

美沙 …まあ、わたしたち三人とも結構ヤバイよね。

莉奈 でもさ、赤点だったとしても、自分の下に誰かいたら安心出来るよね。

美沙 あー、分かる。ビリにだけはなりたくないよね。

亜子 あ、あたしもそう。生きる希望がわいてくるの。

莉奈 それちよつと大きいですよ。

亜子 人間の尊敬ってやつ。

莉奈 尊、厳。

亜子 …あはははは。

美沙 それでさ、このまへの担任希望調査誰が一番人気だったんだらうね？

莉奈 えー、そりゃあ、やっぱり…。

亜子 佑くんだよ！

美沙 うん。わたしたちも佑くんに入れたしね。3年になつても担任は佑君がいいよね。

亜子 絶対そうだよ。

莉奈 まあ、一番マシだし。

亜子 マシとか佑くんに失礼だよー。

美沙 そうだよ。

莉奈 高柳先生、人気あるよね。あたし生物が一番得意になったんだよ。

亜子 でも高校生活を楽しくしてくれるのは佑君だよ。

莉奈 3年になったら進学の相談とか、佑君ちよっと頼りたくない？
美沙 そう言われればそんな気もするけど。
亜子 なんとかなるんじゃない。
美沙 でもさ、これであたしたち来年も同じクラスだね！
亜子 めっちゃいい制度じゃん。さっすが理事長。
莉奈 でも、人気がありすぎたらそのクラス抽選になるらしいよ。
美沙 え、じゃあ3人一緒になれないかもしれないの？
莉奈 そういうこと。
亜子 えー、佑くん。
莉奈 真中って書いとけば100%一緒になれるわけ。
亜子 あたし、真中のクラスになるくらいなら同じクラスになれなくてもいい！
美沙 そんなに嫌なの？
亜子 うん。だってこの前なんかさ、授業中にちよっとあくびしただけで「おい金田、やる気ないなら出てけ！」ってさあ。
美沙 あー、そういえばあったねえ。
亜子 しかもあたしの周りみんな寝てたのにだよ。
莉奈 そんなことあったっけ。
亜子 莉奈も寝てたのか！
美沙 なんかそれってさ、見せしめみたいじゃない？
亜子 そう、見せしめだよ！あれまじ腹だった。
莉奈 真中に担任になって欲しい人いないんじゃない？
美沙 いないだろうね。
亜子 真中…最下位だったりして！
美沙 あー、ありえる。きつとそうよ。
亜子 よくあれで教師になれたよね。
美沙 亜子、それは言いすぎだよ。
莉奈 えー？でもさー…。
美沙 あのさ、最下位の人ってクビになるみたいだよ。
えっ？
亜子 じゃあ真中、クビ！？

莉奈 らしいよ。
美沙 それ、ほんと？
莉奈 理事長が人気のない教師をクビにしたいんだって。
亜子 おお、いいかもしれない！
美沙 私も理事長に賛成！
莉奈 ピーンポーンパーンポーン。〇〇先生、理事長室までお越しください。…そして呼び出された先生は…。
亜子 こわー！
美沙 かわいそう！
莉奈 しょうがないわね。教師になるってことは、そういうことを覚悟しておかなければ。
美沙 そうよね。
莉奈 だって最近の教師ってさ、生徒のことより自分の事ばかり考えてない？教師になった理由も、とりあえず安定した職に就きたかったから、とかさ。
美沙 あー、言われてみれば…。
莉奈 でしょ。
亜子 …佑くんは大丈夫だよな？
莉奈 佑くんは…。まあ、大丈夫じゃない？
亜子 何その間！
莉奈 ごめんごめん。
亜子 あー、心配だなあ…。
美沙 でもさ、真中や鬼ババよりは絶対上じゃない？
亜子 …あ、そっか…。そうだよな…ふふ…。良かった、下がいて。
3人 あはははは…。
亜子 そういえばさ佑くんの演説めっちゃ面白くなかった？
美沙 あれでしょ、マイクに頭ぶつけたやつ。
亜子 そうそう、可愛かったー。
美沙 みんな大爆笑だったよね。
莉奈 「ば、僕は生徒が楽しいクラスを目指します！だからみんなよろしくおねが…いったー
美沙 …。」
あはは、似てるー。

莉奈 っつかし亜子、ほんとに佑くん好きなんだねー。
亜子 うんっ。ギャップがいいんだよね。
美沙 誰だったか声裏返っていなかった？
莉奈 真中よ。緊張しちゃったんだ！
亜子 失笑っていうの、舞台にいた先生達も思いっきり笑ってたね。
美沙 みんな笑ってたね。
莉奈 他にもさ、わけわかかんない演説なかった？
美沙 え、どういふこと？
莉奈 「私は就職に強い」とか「英語なら任せておけ」とかさ。
美沙 ああそんなこと言った、言った。
莉奈 制度の趣旨に合っていないんじゃない？
美沙 制度の趣旨？
莉奈 あたしら選ぶの担任なんだし、教科のこと言われても意味ないじゃん。
亜子 そうだね。就職に強いとかってアピールするのにおかしいよね。
莉奈 この学校はクラスによって不公平ですって言ってるようなもんじゃない。
美沙 あー、どうせなら青春できる先生がいいよねー。テレビの学園ものの先生がいたらいいなあ！

亜子 なんてこんなとこにいるんだよ。
莉奈 決まってるだろう。あたしはあんたの担任の先生だからだよ。
亜子 俺はもう学校辞めたんだよ。
莉奈 あたしが辞めさせない。
亜子 は？センコーが何言ってるんだよ。
莉奈 あたしにはな、教師って立場よりも守らなきゃいけないものがあるんだ。
亜子 …。
莉奈 ダチを助けるためだったんだろう？だったらお前は悪くないじゃないか。
亜子 俺のこと信じてくれるのか？
莉奈 当たり前だ。あたしがお前を信じなくて誰がお前を信じるんだ。
亜子 先生！
莉奈 お前ら、40人全員で卒業するぞ。
亜子 先生！

美沙の携帯鳴る。電話にでる

美沙 もしもしママ？

美沙、電話を切る

美沙 あ、もう5時だよ。
莉奈 まじっそろそろ帰る？あ、スイパラ行かない？新作のケーキ出てたんだよ！
美沙 ほんと！行く行く！
亜子 あ、でもお金あったかな。…うそ、千円しかない！絶対無理じゃーん。佑君「ないかな。莉奈 またたかる気？」
亜子 ひと聞きの悪いこと言わないでよ。この前は佑くんのほっから齧ってちろっつって言うてくれたんじゃない。佑くんとお話したいなって思っただけだよ。
美沙 今日はもう来ないんじゃない？
莉奈 帰ろう！

三人去ろうとする

2

安田やってくる

莉奈 あ、亜子！

安田、亜子どぶっかかる

亜子 きゃっ！
安田 うわ！

亜子 いったー…。

安田、亜子を助ける

安田 「ごめんごめん。けがしてない？
亜子 あ、佑くん！うんっ、大丈夫！
安田 なら良かった。本当ごめんな。そういやお前ら、もう帰るのか？
亜子 あっ佑くん、あたしら今からスイパラ行くんだけど佑くんも行くっよ。
安田 スイパラってケーキ食べ放題の？いいねえ、でもきょうは仕事があるんだ。今度きつと埋め合わせするよ。

安田、券売機に紅茶の券を買いに行く

亜子 きつとだよ。
美沙 よかったね。
亜子 今の佑くん超かっこよくなかった？
莉奈 はいはい。興奮しないでねー。
美沙 亜子嬉しそうだね。
亜子 …えへへ、鼻血でそっ。
莉奈 きも。
亜子 何か言った？
莉奈 別にー。

安田、カウンターに向かう

安田 楠見先生どうもー。紅茶お願いします。
楠見 はい。あ、安田先生、私今クッキー焼いたんですけど、よかったですか？材料が余っちゃったんですよ。
安田 え、マジ？いいんですか？
楠見 もちろんです。(亜子らに向かつて)あなたたちもクッキーどう？

亜子 やったー！食べるー！
楠見 3人とも紅茶でいい？
亜子 うんっ。
安田 俺、手伝いますよ。
楠見 ありがとうございます。
莉奈 ラッキーだね。
美沙 だね。

安田・楠見、厨房へ行く。

真中入ってくる。

真中 お前ら、補習終わったなら早く帰れよ。
亜子 うわ、真中。
真中 なんだその態度は。
亜子 別に。
真中 そういえば金田、今日の補習寝てたな。お前らみたいなののために補習やってるのうちの身にもなれ。
亜子 は？別に頼んでないし。
真中 教師だってもっと他にやることがあるんだ。忙しいな時間を割いてやってるんだから真面目にしろよ。
亜子 そんなの関係ないし。
莉奈 亜子、もう行くよ。
真中 おまえら宿題はやってるのか？
美沙 やってます。
真中 金田、おまえはどうなんだ？
亜子 やってますよーだ。
真中 だれかのノートを丸写ししてるんじゃないだろうな？そんなことしたってすぐわかるんだ。少しでも写してるのがあれば提出したことにはしないからな。
亜子 自分でやりました。行こう！
莉奈 ほんとウザイ奴！

美沙 何様って感じだよな。
莉奈 あんなの相手にするだけ無駄でしょ。
亜子 あ、クッキー。
莉奈 もういいじゃん。
美沙 真中がいるところで食べてもおいしくないよ。

三人去る。
安田と楠見がクッキーと紅茶を持って出てくる

安田 あ、真中先生。先生もクッキー食べます？
真中 クッキーですか？
楠見 ええ。材料が余っていたので。よかったら召し上がってみてください。
真中 あ、じゃあ、いただきます。

真中と安田、椅子に座ってクッキーを食べ始める

楠見 あれ？さっきまで生徒たちいませんでした？
真中 もう帰りましたよ。
安田 あいつらいつの間…。
楠見 最近生徒たち食べに来ないから、久しぶりにクッキーでも食べてもらおうと思ったんですけど。
真中 まあ、今はコンビニでもおいしいものが多いですから。
楠見 飲み物は紅茶でいいですか？
真中 いえ、キリマンジャロで。
楠見 はい。お待ちください。

楠見出て行く。

安田 いやー、補習っていうのはやりにくくて苦手だな。
真中 何故ですか？

安田 だって名前知らない生徒が半分以上いるからですよ。
真中 私は別に名前を知ってるかどうかに関係なく授業してますが。
安田 やりにくくないですか？
真中 別に。
安田 見習いたいです。
真中 …。
安田 そういえば真中先生、コーヒー好きなんですね。
真中 ええ。このメニュー、フランス料理がなくなってもコーヒーだけは前と同様充実してるんですよ。
安田 何でも円高還元セールで買えばいいじゃないですか。
真中 そうなんですか。
安田 コーヒーも今のうちに飲んでおかないといけませんね。もうすぐなくなるそうですし。
真中 え、コーヒーなくなるって？
安田 知らないんですか？うちのフレンチキユイジー又科が閉科になることは知ってるでしょう？
真中 ええ、この前の職員会議で校長がいつてましたね。フランス料理科が無くなることと「コーヒーがなくなる」と何か関係あるんですか？
安田 先生鈍いなあ！フレンチキユイジー又科があるからフランス料理が食べられたんじゃないんですか！
真中 そうですけど…。
安田 だ・か・ら！フランス料理といえはコーヒーでしょう。ブリア・サヴァランが言っているように「コーヒーが頭脳の働きを興奮させることは疑う余地がない」んです。だから、おいしいコーヒーを生徒に薦めていたんです。
真中 ブリア・サヴァラン？ずいぶんペダンチックな名前ですね。
安田 つて楠見先生が言っていました。
真中 ああ、納得。それにしても残念だなあ。
安田 コーヒーも買い置きが無くなり次第、メニューから消えるんですよ。
真中 そうなんですか。

楠見、コーヒーを手に帰ってくる。

楠見 お待たせしました。
真中 ありがとうございます。

杉原 やってくる。

楠見 杉原先生、お疲れ様です。
杉原 どうも。

真中 こんにちは。

杉原 あら、真中先生に安田先生。

安田 杉原先生もクッキーはどうですか？楠見先生が焼いてくれたんです。おいしいですよ。

杉原 あら、じゃあいただこうかしら。

楠見 飲み物いれてきますよ。

杉原 ほんと？じゃあブルーマウンテンをお願い。

楠見 はい。少しお待ちください。

杉原 悪いわね。

真中 ブルーマウンテンもいいけどキリマンジャロおいしいですよ。

楠見 あっ！ご免なさい。それ……。

真中 何ですか？

楠見 いえ、実はそれ……うっかりブルーマウンテン入れちゃったんです。ごめんなさい。入れ直しましょうか？キリマンジャロ。

真中 いいですよ。

楠見、再び出ていく。

安田 コーヒーって、味の違いがわからないんですよ。僕なんかインスタントと豆を挽いたコーヒーの違いもわからないくらいですよ。その点紅茶は味の違いがわかりやすいですよ。

杉原 私はブルーマウンテンとキリマンジャロの違いくらいわかるわよ。ブルーマウンテンの気品あふれる香り、コク、しっとりとした甘みは正にコーヒーの王様よ。

真中 そうですか。でもブルーマウンテンって日本で消費される量の方がジャマイカで生産さ

れる量よりおおいそうじゃないですか。偽物のブルーマウンテンが出回っているわけですよ。

杉原 何をおっしゃりたいの？

真中 何も。

安田 ああ……とにかくここでおいしいコーヒーを飲めるのはフレンチキユイジー又料があつてこそなんですよ。

杉原 フランス料理科、私結構気に入っていたんですけどね。

真中 どうして定員割れしちやつたんでしょうね？フランス料理科。

安田 フランス料理科じゃなくて、フレンチキユイジー又料ですよ。

杉原 キユイジー又なんてそんな気取った名前つけているから定員割れするのよ。

安田 名前のせいじゃないでしょう。準備で遅くなるのがネックになったんでしょうか。

杉原 学費が高すぎるのよ。専門学校より高くているんじゃない。

真中 調理実習が多くて、普通教科の勉強がおろそかになっていたんじゃないですか。手に職つけるのも大事だけど、やっぱり学生の本分は勉強ですから。

安田 それにしても理事長、定員割れへの対応は素早かったですねえ。フレンチキユイジー又料を閉科して、特別進学クラスを作り進学校にする。

真中 進学校にするといえはすぐ明日から進学校に変われると言つものじゃないでしょう？

杉原 そう、そこで理事長は考えたのよ。とんでもない目玉を思いついたのよ。生徒が

担任を選ぶ希望担任制、ぶっこんでしまったわ。

安田 マスコミに取り上げられて、宣伝になったんじゃないですか。

真中 そんな思いつきうまくいくわけじゃないでしょう。うまくいくのなら既にそうなつていま

すよ。僕がここに赴任する前、馬術にアーチェリーにヨット、それからフィギュアスケート部まで

あつたそうじゃないですか。そんなマイナーで金のかかりそうなクラブを作つては廃部にして

……。

杉原 そうねえ。理事長は思いつきをすぐ実行に移しちゃうから、いつも失敗するのよ。

安田 進学校といえは、こないだの「抱負を語る会」は緊張したなあ。真中先生は「ルールをし

っかり教える！」って言うてましたけど、あれどういうつもりだったんですか？みんな引いてま

したよ。

杉原 それに声裏返っていませんか？

真中 いや僕はうちの生徒には厳しさが必要だと思つているからそう言つたんです。

安田 厳しさねえ。

真中 そういうのを求める生徒だっていると思いますよ。
安田 厳しさもそりゃ必要だとは思いますが。でも学校って楽しいのが一番じゃないですか。生徒にとっても教師にとっても。仕事は楽しくなくっちゃあ！杉原先生は面倒見の良さを強調していましたね。

杉原 そう、でも面倒見なんて担任なら普通のことですよ。まあ、私は来年も学年主任になりそうだから担任は外れることになると思うわ。

真中 担任を希望しない先生が増えるんじゃないでしょうか。

杉原 私はできることなら担任したいのよ。

安田 僕も担任したいなあ。教師って担任してこそものだと思うなあ。

杉原 私はもう20年以上担任として生徒を送り出してきたわ。

安田 エッ？先生そんな年なんですか？

杉原 あら？そう見えないかしら？

安田 ええ、見えないなあ。アラサーかと思ってました。

杉原 アラフォーよ。

真中 それはともかく、こんな制度が導入されるなんて思ってもいませんでしたよ。自主性を養うってことだけど。

杉原 そうよね。希望担任制にしたからって進学校になれるとは思えないわ。

真中 生徒に人気のある先生だけにして進学校にするってことなんですよ。理事長の考えはわかるけど、生徒に媚びを売る先生だって出てくるんじゃないですかね。

安田 それ、もしかして僕のことでしょうか。

真中 いえ、一般論を言っただけです。

杉原 安田先生楽しいクラスにするとかって言ってたわね。演説のあとの拍手すごかったじゃない！

安田 ええ、つい力が入っちゃって。生徒から選挙演説みたいだったって言われましたよ。でもまあ、同じ仕事をするのに楽しいほうがいいでしょう。楽しい授業に楽しいホームルーム、生徒はそれを望んでいると思います。

真中 僕は楽しいだけじゃダメだと思ってるんです。

安田 そうかなあ。僕が高校生ならこの制度があったら大喜びしたと思いますよ！

真中 生徒が喜ぶことが全て生徒のためになるとは限りませんよ。

安田 そうですかねえ。でも我々教師もやる気出ていいじゃないですか。

真中 すべての先生が安田先生みたいに前向きな先生だといいいんですけどね。

安田 あ、ありがとうございます。

真中 いえいえ。

安田 なんてそんなに反対してるんですか？

真中 いやいや、別に反対じゃないんです。ただ、不安な点が多いんですね。

安田 たとえば？

真中 人気と実力は別物だっただけですかね。

安田 うちのような私学が生徒を集めるには人気が一番ですよ。

杉原 実力が伴っていればいいにこしたことはないわ。

真中 何の議論もせずに理事長の一存で決まっちゃったことが心配なんです。公立だったら異動できるんだろうけど。

杉原 たしかにそうね。

真中 杉原先生、担任を決めるのは学年主任と教頭でしたよね。

杉原 ええ、そうだけど、それが何か。

楠見、コーヒーを手に戻ってくる。

楠見 お待たせしましたー。ブルーマウンテンです。

杉原 (楠見に向かって)先生、フランス料理科なくなってしまっなんて残念ですわ。

楠見 やっと軌道に乗ってきたところだったんですけどね。

杉原 フランス料理科の生徒、就職率とても高いですもんね。

楠見 そうなんです。うちの生徒が就職したレストランから基礎ができていって評判いいんですよ。

杉原 生徒が調理している食堂ってことで全国的に有名になったのね。

楠見 その体勢をつくるの大変だったんですよ。

杉原 来年から先生、どうされるんですか？

楠見 心配して下さってありがとうございます。

杉原 何か当てはあるの？

楠見 ええ、まあ。実家が喫茶店なんです。そこでフランス料理を出させてもらおうかなと思っっているんです。

杉原 それはいい考えね。みんなで食べに行かせてもらうわ。安田先生や真中先生も食べに行きたいでしょうっ？

安田 是非とも行きたいです。

楠見 それが、喫茶店は喫茶店でも和風喫茶なんですよ。あんみつとか、抹茶プリンとか。杉原 ああ……。カナッペとかムースは合わないかもしれないわね。

安田 そうかなあ。和洋折衷っていうのもいいじゃないですか！

真中 このポトフとかテリーヌとか僕大好きだったんですよ。また、食べたいですよ。是非そこで続けて欲しいな。

安田 アンチヨビソースは最高だったな。

杉原 わたしはなんと言ってもサラダニソワーズね。あのニース風サラダはこのフランス料理屋よりもおいしかったわ。

安田 先生ほどの腕があればどこのホテルやレストランでも雇ってもらえますよ。

楠見 ありがとうございます。

真中 我々は一度クビになったら再就職は大変ですが。

溶暗

3

真中 カフェテラスで座って何かを書き写している。

安田 カフェテラスでパソコンに向かっている。

亜子、莉奈、美沙の3人が入ってくる。

亜子 今日何にする？

莉奈 あたしチョコクッキー。

美沙 あたし今日頑張ったから自分へのご褒美にベルジャンシヨリにする。

亜子 あたしは……。やばい！

真中 おい。お前らスカート短いぞ。

亜子 うわ、真中じゃん。

莉奈 行く。

真中 おい。聞いているのか。

亜子 はいはい。後で直しますよー。

真中 今やれ、今。

莉奈 うげ。

真中 なんだその口のきき方は。

莉奈 あー、はいはい。すいませんー。

真中 おいっ。

美沙 ていうか、先生、私たちのスカート見てたんだ。きつもーい。

真中 なっ。

亜子 あ、ほんとだ。わいせつ行為ー。

美沙 最近多いよねー。

真中 違う！ただ目に入っただけで…。

亜子 えー、信じられなーい。

美沙 訴えちゃっ？

亜子 あ、いいねえ。

真中 僕は教師として当然のことをしただけだ。お前らのスカートが短いのが悪いんだ。ほら、直せよ。

亜子 きゃー！真中にスカートめくられたー。誰か助けてー！

真中 は？

楠見出てくる

楠見 どうしたの？

亜子 あっ、佑くん！聞いて！あのね、真中があたしのスカートめくったんだよ！

楠見 え、真中先生、それはまずいですよ。

真中 違うー誤解だ。

安田 真中先生、どうしてこうですか？

杉原登場

杉原 ちよつと何ですか。うるさいわよ。
美沙 先生。真中先生が金田さんのスカートめくったんですう。
杉原 は？…真中先生がそんなことするわけないでしょう。
亜子 えー、でも本当だよ。ね。美沙や莉奈も見たよね？

美沙 うん。
真中 違います！僕はただスカート丈が短いと注意しただけです。
亜子 だからそれがきもいんだって。

杉原 教師が生活指導するのは当たり前のことです。だから真中先生は悪くありません。むしろ安田先生。

安田 はい？

杉原 あなたは日頃から生徒に甘すぎます。真中先生を見習いなさい。

安田 ……すいません。

亜子 えー、佑くんは真中みたいになってほしくないー。

杉原 大体あなた達なんなのその髪の色！化粧は禁止よ！ピアスまでして…！

莉奈 うっさ。

美沙 鬼婆は真中以上にしつこいねー。

杉原 鬼婆って誰のこと？

美沙 何でもありません。

杉原 あなた達生徒がちゃんとしてれば私は何も言わなくてもいいのよ。制服を着たら学校の看板背負っているんですからね。あなたたちのおかげで真面目な生徒が迷惑するのよ。

莉奈 あー、はいはい。よく分かりましたー。

杉原 分かったなら、早く全部なおしなさい！

莉奈 もう行ー。

3人 去ろうとする

杉原 こらあなた達！人の話を聞きなさい！

美沙 きゃー。追ってきたー。

亜子 まさに鬼ごっこだねー！

3人 あははははは…。

杉原 人を馬鹿にするのもいい加減にしなさい！

3人、杉原去る

楠見 困った子たちですよ。

真中 全くですよ。

安田 危なかつたですね、真中先生。

真中 …あの生徒たちの担任誰なんでしょうか？

安田 え、俺ですけど？

真中 注意しなければならぬことはきちんと注意しないと。

安田 すみません。

真中 僕だって生徒に嫌われることを言いたくありませんよ。でも我々は教師なんですから。

溶暗

4

溶明

安田と杉原お茶を啜っている。

安田 先生、最近真中先生元気がないとおもいませんか？

杉原 そうかしら。もともとそれほど明るい方じゃないから。

安田 うちの生徒に痴漢呼ばわりされてから元気がなくなったような気がしてゐるんです。

杉原 思い過ぎしよ。

安田 そうですかね？なんか申し訳なくて。

カフェテラスに波子やってくる。

波子 杉原先生。こんなところにいたんですか？

安田 お、たったひとりの新聞部だ。

波子 ずいぶん捜したんですよ。高柳先生に「杉原先生知りませんか？」って聞いたら「よく知ってるよ。」って。「どこにいますか？」って聞いたら「どこにいるかは知らないなあ。俺は杉原先生のマネージャーでもストーカーでもないから。」ですって。

安田 高柳先生お得意のボケをかまされたんだ。

波子 生徒にそんなボケがまして楽しいんですか？

安田 相手によるかな。高柳先生おまえのこと気に入ってるんじゃないか。

波子 やめてください。教師は特定の生徒のことを気に入っているとかがどうとか言うべきではないと思います。

安田 これは手厳しいなあ。

波子 先生方は勤務時間中に学食にいてもいいんですか？

安田 ここで油売ってるわけじゃないんだよ。ほら、「こ」で仕事をしているんだよ。なにしろこの紅茶最高においしいからね。

波子 フランス料理がなくなるるときみんなのブーイング凄かったです。私は滅多に利用しないから関係ないんですが、先生がたはよくこられるんですね。

安田 僕は全メニュー制覇したよ。中でも白身魚をアンチヨビソースで食べるのが最高にうまかったなあ。杉原先生はサラダニソーズが一番だっておっしゃってましたね。

波子 今のメニューの方が値段が安いのでそれなりに好評です。

安田 そうなんだよ。先生方もフランス料理がなくなって残念がっているけど結構通風に悩まされている先生いたんだよ。無くなってからすっかり治ったって言うてるんだ。でもたまにはフランス料理食べたいよね。

波子 そうですか。私はお弁当の方がいいですけど。

杉原 で、山本さん、何の用なの？あなた補習ないわよね？

波子 新聞できたんで読んでもらおうと思ってる。

安田 山本。この前の新聞よかったよ。

波子 廃部になった部のインタビュー特集号ですか。

安田 「突然の廃部宣告！その時部員たちは」！俺、部長たちのインタビュー読んで泣いちゃったよ。

波子 私もインタビュー中部長さんがあんまりしんみりしてるから泣きそうでした。急に部活

減らしすぎじゃないですか。不祥事やらかしたわけでもないのに。

杉原 そうねえ。私もさすがにかわいそうだと思ってるたの。いくら勉強に力入れなきゃいけないとは言っても、部活は青春の1ページなんだから。

安田 新聞部は部活。ページの難を逃れたんだな。

波子 部活。ページって何ですか？

安田 肅正だよ。

波子 新聞部はつぶされても私一人で続けます。現に今一人で活動していますから。

安田 杉原先生、新聞部なぜつぶされなかつたんですか？

杉原 理事長や校長の記事を写真入りで発行していますからつぶされるおそれはないんですなるほど。実績のない部活全部廃部になりましたね。

波子 演劇部の部長さんなんか、インタビュー中に号泣してましたよ。

杉原 何言ってるの！演劇なんかしてたら進学どころか卒業もできないわ！

波子 え？！急にどうしたんですか？演劇部に何か恨みでもあるんですか？

杉原 演劇部なんか、演劇部なんか…。

波子 演劇部がどうしたんですか？

杉原 私、演劇部だったの。でもやめさせられたの。3年の夏の三者懇談で担任と親がタッグ組んで進学する気ないのこつて責められたのよ。3年になってやっと主役ができると思ってた矢先…今でも思い出すたびに悔しくて。

波子 ああ…、ええっと…。何と言えはいいのかわからないけど、そうだったんですか。先生が辞めさせられたこととうちの演劇部が廃部になると何の関係があるん…。

安田 山本！誰だつてなあ、深い心の傷を負っているんだよ。一生消えない心の傷があるんだよ。先生の心の傷はきつとまだ疼いているんだよ。そうですよね。

杉原 (キツと安田を睨んで)あなたに何がわかるのよ。

安田 すみません。

波子 杉原先生は廃部になった部員の気持ちがよくわかるんですよ。だから、特別審稿してくれましたか？「この悔しさをエネルギーに変えよ」って。みんな泣いてました。

安田 いつも新聞とちよつと違うなあって思ってたんだよ。

波子 わたし、ずっとインタビュー記事書きかかったんです。それなのに杉原先生が全然許してくれなくて。

杉原 山本さんの記事は内容が過激過ぎるんです。

波子 そんなことありません。
杉原 前回だって、わざわざ廃部になった部の部員にインタビューまですることないんじゃないかって言ったんですけどね。そんな傷に塩を塗るようなこと……。
波子 先生！それじゃ意味がありませんよ。やっぱり新聞は生の声を読者に届けたい。学校側の有無を言わせぬやり方に反発している生徒たくさんいると思ったんです。
安田 お前、ジャーナリストだな。
杉原 それに、学校側を批判するようなことスバズバ書いてくるんだから。
波子 メディアは国民の味方でない。いえ、生徒の味方でない。
杉原 それにしてもねえ……。
波子 杉原先生に合わせて書いてたら花壇のチューリップが咲いただの、池の鯉が一匹増えただの、どうでもいいことしか書けないじゃないですか。
安田 池とかありましたっけ。
杉原 ええ。一応ね。去年、維持費がもったいないって言って水抜いちゃいましたけど。でも、いいじゃない。すごく学生らしい新聞で。
波子 学生は学生でも小学生が書く記事ですよ。そんなのは。
杉原 それより山本さん、あなた新聞できたって言ってたわよね。
波子 はい。
杉原 どうして早く見せないの。
波子 いや、先生が興奮されたからタイミング逃したんじゃないですか。
杉原 いいから見せなさい。
波子 ……はい。

杉原新聞を読む。

杉原 ……
波子 どうですか？
杉原 だめね。
波子 どうしてですか。
杉原 だから、あなたの記事は過激すぎるのよ。
波子 だから、過激じゃありません。わたしは調査した結果をそのまま書いただけです。

杉原 それが過激ってことなのよ。
波子 じゃあ嘘書けってことですか。
杉原 そうじゃないけどね。
波子 だったらそれでいいじゃないですか。
杉原 わがままなのよ。そんなのは。
波子 わがまま？
杉原 自分が伝えたいことを押し付けるような新聞はただの独りよがりなの。
波子 独りよがりなんかではありません。むしろ先生の被害妄想です。……いえ、言い過ぎました。すみません。
杉原 これを読んで傷つく先生何人もいると思うわ。
波子 それは……。
杉原 わかるでしょ！分かったら、その記事はボツ。
波子 納得できません。言論の自由に対する抑圧だと思えます。そんな検閲認められません。
杉原 検閲じゃないわ。指導の一環です。過激な表現で生徒を誘導する虞があります。
波子 生徒が今一番関心あることをありのままに書いただけです。
杉原 とにかく誰がなんと言おうとダメなものはダメ。はい、ここまで。
安田 過激な記事って何なんだい？一体何を書いたんだい？。ちよつと見せて。

波子から新聞を取り上げる。そこへ真中入ってくる。

安田 おおつ。希望担任制の投票順位トップテンか。……え？俺一位？やった！
杉原 ちよつと、安田先生！
安田 2位が高柳で3位が今泉か。まあ、順当なところだな。
杉原 ちよつと、先生その新聞ボツにするんですから。
安田 杉原先生はえーっと。ないや。

5

真中、入ってくる。

杉原 真中先生、その新聞とりあげてください。
真中 え？あ、はい。

真中が新聞を手にする。

真中 …杉原先生？これ、どういうことですか？投票順位は公表しないことになってるんじゃないですか？
波子 わたしが投票日に校門で出口調査したんです。
真中 生徒全員の出口調査したのか？
波子 いえ。2年生の5分の4くらいです。
安田 ちょっと、真中先生。僕にも見せてくださいよ。

安田、新聞を読む。楠見入ってくる。

波子 大体の順位に間違いはないと思います。
真中 そうか…。
杉原 さぞかし嬉しいでしょうね？
安田 いえ、そんなことはありませんが。
波子 やっぱ、生徒にはもつとこの制度のことを知ってもらったほうがいいですね。(杉原に向かつて今回の制度って、自分に合った先生に担任してもらったことが目的ですよ。でもその目的を果たせないと思うんです。
杉原 どういうこと？
波子 人氣が一人の教師に集中したら、抽選になるんですよ？
杉原 そうね。どうしても抽選にもれる人が出てくるのはしかたがないわ。
波子 そうすると、合わない担任にあたる生徒が出てしまいます。不公平が生じます。
杉原 それはしょうがないじゃない。運が悪かったと諦めるしかないわね。
波子 担任なんて誰でもいいやって思っている人はこれといって問題はありません。でもこの先生だけは嫌と思っている先生が担任になることだってありえます。運のせいであきらめられると思いますか？

杉原 それは…。
安田 でも、元々選べないことだから、もし抽選で外れたとしてもしょうがないじゃないですか。

波子 それじゃあ制度の意味がありません。生徒に担任の希望を聞いておきながら抽選で外れたから我慢しなさいというのは納得できません。

杉原 みんなが納得できる制度というのはないでしょう。

安田 確かに、制度がなかったら好きな先生に当たれたかもしれないのに抽選のせいではずれたことになったら悔しいだろうな。

楠見 なるほど、きゅうりの安売りセールがなかったらきゅうりを買えたかもしれないのに、安売りセールのせいできゅうりを買えなかった時の主婦の気持ちですね！

波子 キュウリと一緒にしないでください。生徒にくじを引かせて担任を決めさせないでほしいんです。先生の人氣投票しただけじゃありませんか？

杉原 …山本さんの言いたいことはわかったわ。

波子 じゃあ…。

杉原 でも、この新聞は私が預かります。

波子 えっ？

杉原 制度について批判的なことを書かれた新聞が世間に知れ渡ってしまったら大変です。

波子 トゥーンテンに入っていないことが知られてしまうからですか？

杉原 山本さん、あなたねえ。

真中 杉原先生。

杉原 …。

波子 先生だって本当は反対したいんじゃないんですか。自分のクラスの生徒の大半が抽選に漏れた生徒だったらって想像したことありませんか？抽選に外れた結果、自分の担任が人氣最下位だとわかったらどうなるでしょう？そのクラスの担任はクラスをまとめられるでしょうか？先生方はなぜ黙っているんです？

真中 もういいだろう。山本、学校はお前たち生徒のためにやっているんだぞ。

波子 …ほんとに生徒のためなら、まず私たち生徒に意見を聞いてから導入してほしいんです。

真中 ああ、確かにそうだな。

杉原 希望担任制に反対なのはよくわかったわ。でもその人氣投票の結果を発表するのはど

うつつもりなの？

波子 先生方は生徒に人気投票されて悔しくないんですか？みんな本当に実力のある先生は何となくわかってるんです。わかっているけどみんな若くて楽しそうな先生や厳しくない先生に投票するんです。その順位を見て何かおかしいと思いませんか？私はこの新聞を先生方にも読んでほしいんです。希望担任制をやめてもらいたくてこの新聞を書いたんです。トップテンに入っていない先生が好きな生徒だっただけなんです。でもその人達だって自分の担任がトップテンに入っていないことできつと複雑な気持ちになると思います。担任は運命で決まったという感じがいいんです。この制度をやめるのにまだ間に合うんじゃないんですか？

杉原 実はもう決まっているのよ。

波子 発表は未だじゃないですか！私一人でも理事長に掛け合います。ただ、その新聞にも書いたとおり、生徒はほとんど希望担任制に賛成なんです。だから先生方から声を上げてもらわないと…。

杉原 …できないわよ。

間

波子 分かりました。この新聞は印刷も掲示もしません。

安田 え？どうしたの急に。

波子 もともと先生の人気順を発表することが目的ではないんです。そんなもの新聞を掲示しなくても分かりますから。

杉原 どうして？

波子 先生方も分かっているんでしょう。

安田 僕らには知らされないんだ。

波子 人気投票なんかしなくても生徒はわかっているんです。

杉原 希望担任制は人気を調べるのが目的ではなくてあなた方が自分にあった先生に担任になつてもらえるようにという事で…。

波子 希望担任制って、マスコミに取り上げられて話題になることをねらったとか思えませんが。はっきり言います。人気が下位の先生の中に杉原先生も含まれています。でもそれは先生の厳しさの表れなんです。私は、先生は優秀な立派な先生だと思っています。本当に生徒のためを思うのなら、希望担任制は廃止したほうがいいです。そんなことをしても決して学校の人

気は上がらないと思います。私は担任の先生なんか誰でもいいと言ってるんじゃないやなくて、生徒の方が担任に順応する必要があると思うんです。…私が言いたかったのはそれだけです。失礼します。

波子去る

6

安田 山本の言うことにも一理あるなあ。生徒が順応することのほうが大切かもしれないですね。

杉原 でも学校側としては見過ごすわけにはいかないじゃない。

安田 学校、学校って…。学校よりもっと大切なものがあるじゃないですか。

杉原 それくらい分かっているわよ。でも生徒が集まらなければ、経営が成り立たなくなっている学校なくなるのよ？私たちの働く場所が無くなるんですよ…？

安田 …杉原先生は、自分の働く場所が無くなるのが怖いんですか？

杉原 そんなこと考えているんですか。僕たち教師は、生徒を教育するために雇われているんですよ。なのに自分を守るために教師をやっているなんて…。

真中 安田先生。前も言いましたが、みんなが安田先生と同じ考えとは思わない方がいいですよ。

安田 はい…そうですね。以後気を付けます。すいません、杉原先生。

杉原 いえ、いいのよ…。

真中 杉原先生、山本が書いた新聞に載ったランキング、本当の投票結果と同じなんですよか？

杉原 それは…。

真中 杉原先生は、トップ10以外のランキングもご存知なんですよ。僕が最下位かどうかだけ教えて下さい。たぶんそうだろうと思いますけど。

杉原 言うわけにはいかないわ。非公表ですから。

安田 どうしてそう思うんですか？

真中 いや、何となくそんな気がしたんで。
杉原 真中先生、山本さんが集めたデータにしてもそれほど正しくはありません。
真中 杉原先生、気を遣ってくださらなくてもいいですよ。
杉原 真中先生…。
真中 大丈夫ですよ。元々辞める気でいましたし。
安田 えっ、じゃあ今まで言っていたことって、本気だったんですか！？あの、学校というか、理事長の考え方に反対みたいなこと言っていましたよね？
真中 はい。

安田 …。
楠見 辞めるって…辞職するって…ですか？
真中 …。
楠見 そんな…。

真中 自分に向いた仕事を探しますよ。

安田 仕事を探すたってそんなに簡単な事じゃないでしょう。

杉原 こんなことで辞めてしまうのはよくないわ。ここは踏ん張らないと。私だって…いろいろ言いたいわよ。でも今の暮らしが壊れると思ったら…。私だって必死なのよ…。

真中 辞める前に理事長に自分の意見を言おうと思っっています。

杉原 そんなことしても理事長何もわかってくれないわよ。それともかっこいいことだとも思ってるの？

真中 そんなんじゃありません。どうしても僕はこの学校の方針についていけないんです。学校の方針に合わないものは去っていくしかないでしょう。

楠見 …去っていくって、そんな軽々しく言わないでくださいよ…。

真中 はい？

楠見 辞職するってどうなることか分かってるんですか？今までの生活ができなくなるだけじゃない。周りからの期待や信頼を裏切るんですよ！？それがどんなに苦痛か…。親御さんになんて言うんですか？

真中 それなら大丈夫ですよ、親とは離れて暮らしていますから。それに僕には家族もいないし、この学校には期待されていないって分かりましたし。

楠見 当たり前だったことが当たり前じゃなくなるんですよ！？人生メチャクチャになるんですよ！？

杉原 楠見さん、落ち着いて。

真中 楠見先生が興奮することないじゃないですか。

安田 …真中先生、今日何か変ですよ。楠見先生も。

真中 そんなことありません。

安田 さっき山本が言ってたように希望担任制に異議を唱えるってことですか？一個人が掛け合っただけなるものでもないでしょう。あのフンマン理事長ですよ。

真中 そんなことわかっていますよ。クビを言い渡される前に自分の意見を言うから辞めたんです。

楠見 そんなにやめたいんなら好きにすればいいわ。私はあしたハローワークへ行きます。

真中 先生は実家の喫茶店で働くんじゃないんですか？

楠見 だから和風喫茶だって言ったでしょ。真中先生は教師以外に何かできるんですか？

真中 そりゃあなんだってやるつもりですよ。

楠見 無理無理！世の中そんなに甘くないですよ。教師なんて他に何の取り柄もないんだから。なんとつか先生のそのプライドが邪魔をするんですよ。

真中 プライドって別に…。

楠見 さっき言ったじゃないですか。クビを言い渡される前に自分の意見をいってから辞めるって！クビにされる屈辱に堪えられないから、だから辞めたいんですよ！そのプライドが邪魔をするんです。私、私物の整理しなくちゃ…。失礼します。

楠見去る。

3人沈黙

安田 …ずっと引っかかっていたんですけど、真中先生、本当に最下位だと思っているんですか？

真中 …？

安田 前々からずっと制度に反対して言っていましたけど、ここまではつきり口にしたのって今日が初めてですよ。最下位の人と呼ばひ出されて、解雇されるかも知れないって噂が流れてからですよ。

真中 それは関係ありません。

安田 最初から自分は人気が無いって分かってたから、もしかしたら解雇されるかもって思っ

てたから、予防線張ってたんですね。

真中 安田先生、いいかげんなこと言わないでください。

安田 だって僕がもし真中先生の立場だったら、自分が最下位だってばれるといてもたつてもいられなくなると思います。楠見先生が言ったとおり、僕も自分のプライドに押しつぶされてしまうと思います。真中先生もそうなんじゃないですか？だから真中先生は…。

真中 僕は違う。安田先生とは違うんだ…。

安田 ……そうですね。じゃあ僕、明日の補習の準備するんで職員室戻りますね。

安田去る

真中去ろうとする

杉原 真中先生。

真中 ……何ですか？

杉原 これからどうするんですか。

真中 それは分かりません。

杉原 そう…。今度の件で私もズタズタにされてしまった。でも頑張るしかないわ。大学生の子供にどれだけお金がとんでいくか知ってる？授業料の他に毎月仕送りが10万。それから養わなければならぬ親もいる。生きていかなければならぬのよ。

真中 先生…。

杉原 あなたと私は人気ワースト2よ。

真中 やっぱ、そうでしたか。

杉原 私、山本さんに順位を知られてしまったと思って、それで頭に血が上ってしまって、あの子にひどいことを言ってしまったわね。教師になって26年、これまで築き上げてきたものがすべて覆されてしまった。それでも私は頑張るつもりよ。真中先生、先生も自分を信じて、…頑張るって欲しいの。

杉原去る。

真中にスポットライト

真中 ……。

真中立ち上がる

生徒A ねえ、ねえ？希望担任制の選挙、誰が一位になったんだらうね。

生徒B えー、そりゃあ、やっぱり佑君でしょ…。

生徒C 当たり前だよ。

生徒A じゃあ誰がビリなんだらうね。

生徒B 真中じゃない？鬼ババとビリを争ってるんじゃない？

生徒C 真中に決まってるよ。私真中にだけは担任になって欲しくない。

生徒A いい制度ができたもんね。

生徒B 誰も希望者がいなかったら真中どうすんだらうね。

生徒A そりゃあ教師やめるしかないよ。

生徒C それいいね。

生徒D 真中ってなんで教師になっただんだらうね。

生徒E 教師に向いてないのね。

生徒D 暗すぎるよね。

生徒E 授業眠すぎ。お前の授業は子守唄か？。みたいなの？あはははは…。

保護者A あの先生、生徒からあまり好かれていないらしいわよ。

保護者B そうなの？まあ確かに真面目だけが取り柄ですって感じてよね。

保護者C 難しい問題質問されたらいつも会議があるって逃げるらしいわよ。

生徒G 偉そうなこと言ってるけど、解けないんだ…。

生徒F 自分にあつた学校に転勤すればいいのね。あればの話だけど。

教師A 真中先生、あなた真面目に授業やってるの？PTAから苦情がすごいよ？聞いてます？学校の信頼を失うことにつながるんですから、ちゃんとしてください。

教師B 教科書丸写ししてるんだって！

教師C あいつがいたら安心だよな。俺たちが良い教師ってことになるし。

教師D あなたそれで頑張っているつもりなの？周りからは怠けているようにしか見えないの。そんなことで恥ずかしくないの？あなたにプライドというものはないのかしら。

教師E 真中先生、すごい噂広まっていますよ。「こでは言えないくらい」の…。ふふ、まあ頑張ってください。

教師F 投票結果、真中先生が最下位です。
保護者D 子供が心配だわ。せつかく私立の女子高に入学させたのに。
生徒D きもい。
生徒B 死ぬ。マジ消えろ。あははは…。
生徒H ああいう教師がいるから子供たちが非行に走ったり、おかしくなるんだわ。
教師D 教師辞めたらいいのに…。
教師C あいつは教師に向いてない。
保護者B どうしてあんな人が教師に？
生徒I ホームレスが似合ってる。きやははは。
辞めろ。
辞めろ。
辞めろ。
辞めろ。
辞めろ。

真中苦しそうにうめく。

「。ンボン。ンボン」

放送 「真中先生、至急理事長室までお越しく下さい。繰り返しです。真中先生、至急理事長室までお越しく下さい。」

真中我に返る

暗転

7

溶明

亜子・莉奈・美沙やってくる

亜子 アイス食べよー
莉奈 あたしコーンバナナがいい。
亜子 はいよ。美沙は？
美沙 買ってくれるの？ありがと。じゃあチョコミントお願い。
亜子 はいはい。あたしはベルジャンシヨコラにしようっと。
美沙 お、リッチー。

亜子、アイスを買っていく

莉奈 あたしら三人とも佑くんのクラスになれなかったねー！
美沙 ショック！
莉奈 この一年うんざりだよ。うちのクラスの担任鬼ババだよ。
美沙 えー、かわいそー！
莉奈 もう最悪！朝から、化粧するな、ピアス外せ、スカート短い！って3連発で説教されたわよ。
美沙 マジ。もはや鬼ババじゃなくてただの鬼じゃん。

亜子、帰ってくる

亜子 おまたせー。何の話してたの？
莉奈 鬼ババの話。
亜子 ああ、なるほど。てかさ、あたしたちほんとはついてないよねー。せつかく3人同じクラスになれると思ってたのに。担任が佑くんじゃないなんて、抽選とかまじないよねー。
美沙 え？亜子、聞いてなかったの？
亜子 なにを？
美沙 始業式で言ってたじゃない。新学期が始まる直前に、希望担任制廃止になったんだよ。
亜子 え！うそ、なにそれ！抽選で洩れたんじゃないの？
莉奈 あの大ブーイングの中寝てられる亜子ってすごいわ。
亜子 ありえない、なんで？それじゃあたしらただ投票しただけじゃん。誰だよ廃止とか言ったのー。

美沙 理事長に決まってるじゃん。

亜子 理由もなしにコロナ制度変えてんじやないよほんとに。

莉奈 噂なんだけど、佑くん人気一番だった事がその理由らしいの。

亜子 は？

美沙 何それ。制度が廃止になるのと何の関係があるの？

亜子 訳わかんないよ。

美沙 もしかして佑くん理事長に嫌われてるのかな？人気があるから妬んでるんだよ、きつと。

莉奈 佑くんがあたしに優しいのが気に入らないんじゃない？

亜子 もう最悪！

美沙 うちがまさかまさかの真中だよ。

莉奈 おめでとう！ワーストコンビだね。

美沙 やったね！

亜子 やけくそだね。うちの担任の今泉ってやつ、初心表明演説とかいって話が長いよ。

美沙 あんたはいつも寝てるから関係ないじゃない。うちの真中なんか今年は今まで以上にバシバシいくぞって、気合入ってるのよ。もう最悪。

亜子 (美沙に向かって)あんたは気合入れてもらったほうがいいんじゃない！

莉奈 (亜子に向かって)あんたのほうこそしっかり説教してもらいなさいよ。

美沙 あたしたちもう3年生なんだから少し大人にならないとね。

亜子 特に…莉奈はねーっ。

莉奈 ちよんどのいいかもしれないわね。あたし実は朝から1時間もかけて化粧するのめんどくさくなってるのよね。だから…10分にしよう。

亜子 懲りないね。

美沙 最初から今度の制度廃止にするつもりだったのかしらね。

莉奈 さあ。

亜子 あたし少しは楽しみにしたけど、結局先生らが一番ふりまわされたんじゃないの？

美沙 そうかもね。

莉奈 まあどうでもいいといえばいいんだけど、この学校どうなってるんだらうね。

美沙 理事長の頭の中見てみたいよ。

亜子 いや、理事長の顔が見てみたいよ。

莉奈 あんた理事長の顔も知らないの？

亜子 うん。式の時はいつも寝てるから。

〜幕〜